

# 塾

泰ちゃん、入学おめでとう。お母さん、お疲れさま。三年間大変だったね。

あなたの話をあんなに毎日のように聞きながら、どこか人ごとだったけれど、いざ我が子を塾に入れてみると、さあたいへん。あなたの苦労が、やっと身にしみてわかりました。

横浜でも青葉区の方は、東京志向でほとんど中学受験するらしいんだけど、同じ横浜でもこっちはのんびりして、受験のことを話す人はあんまりいない。だから、娘は学校の成績はまあまあだし、五年生になってからでもと、のんきにかまえていたら、ショック！

入塾テスト、補欠よ、補欠。学校のテストでは、これでいいか、と思っていたけど、こんなのあり？ 国語と算数が合格ラインに達してたのでとりあえず、塾に入れたけど。

本人は試験を受けた時、あまりに自分ができなくて悔しかったらしく、「補欠でも絶対この塾に行きたい！」だって。週四日、六時から九時まで、お弁当を持って嬉しそうに通ってる。日曜日は毎週テストだし。

こっちは毎日お弁当つくって、九時過ぎに車で駅までお迎えに行って、日曜日には七時起きで、駅までキャリアイ。これ、あと二年も続けるのと思うと、うんざりしないわけでもない。

でも、娘いわく「塾は楽しいよ。先生はおもしろいし。絶対やめたくない。成績上がらなくてもやめさせないでね」だって。

受験塾って本当に高いじゃない。「未希ちゃんち、合格したらハワイに連れて行ってくれるんだって」という娘に、「塾に行かせるお金で、家族で何回ハワイに行けるかしら」って思わず言っちゃったわよ。

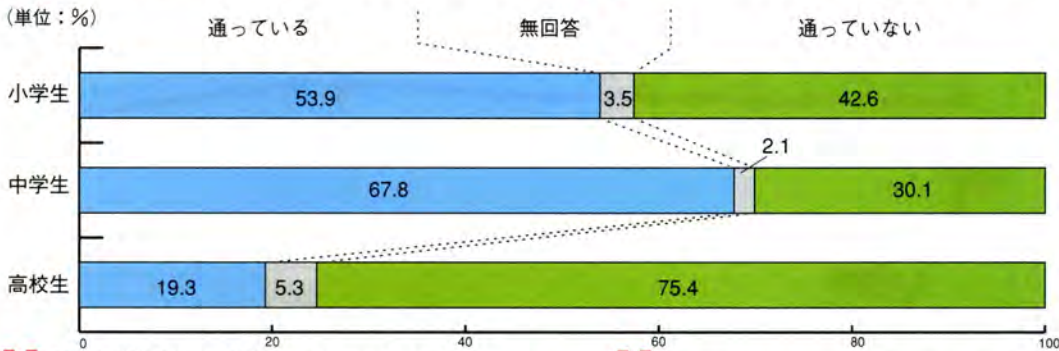
受験なんて、ウチみたいな普通のサラリーマン家庭にとつて、ちよつとやりすぎかなと悩んだりするんだけど、私自身が中・高と私立で過ごして、いい雰囲気だったから、娘にもそうさせてやりたいと思うし。

まあ、とにかく娘が楽しそうに通ってるんだから、私もできるだけ応援しようと思ってます。先輩、アドバイスよろしくね。

(瀬谷区 I・Sさん 三十七歳)

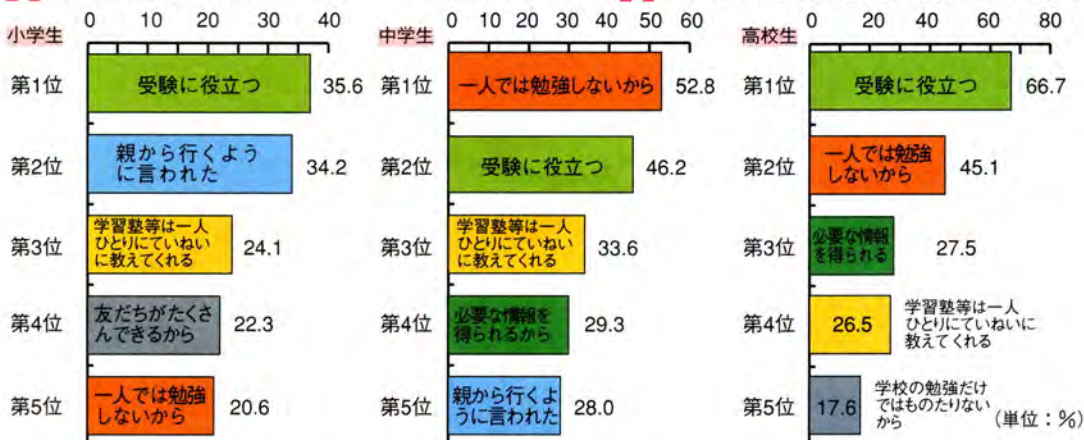
## 学習塾・予備校への通塾の有無

「横浜市子ども基本調査」(平成7年度・横浜市)



## 学習塾等に通っている理由 (複数回答)

「横浜市子ども基本調査」(平成7年度・横浜市)



塾に通う子は、中学生で最も多く七割弱。小学生でも五割を超えるが、高校生では二割弱と減少。  
塾に通う理由—小学生、高校生は「受験に役立つから」と受験中心。中学生は「一人では勉強しないから」と他人任せ。



# 学校生活―部活動―

亮くんのお母さんへ。

四月、期待に胸をふくらませて、伸一郎も地元の中学に入りました。小学五、六年の時、磯子区のミニバス（ミニバスケットボール）のクラブで亮くんたちにも、しっかりお世話になり、伸一郎もそれまであんまり得意でなかったスポーツがとても好きになりました。

そんなことで、中学では部活は絶対にバスケットだと言って入学したのですが、うちの中学には、バスケットどころか、テニスやサッカーといった、今どきのスポーツ部がありません。

先生のお話では、教科で異動があつて、部活の方は考慮されないとのこと。また、先生も高齢化が進んで、部活ができないということもあるようです。

でも、子どもたちにとって、最もエネルギーを発散させる必要がある時期、部活は授業と同じように重要だと思えます。ですから、先生方の任意的な位置づけではなく、部活専任の先生を配置するくらいの考えがあつてもいいのではと思いますが、そちらの中学はどうですか。

（港南区 N・Kさん 四十歳）

## ● クラブ加入、男女で違い ●

小学生では、男女による加入の違いはない。

中学生では、運動系に男子七三・一％、女子四八・二％、文化系には男子三・五％、女子三一・二％と、男子は運動系に、女子は運動系と文化系に分かれる。

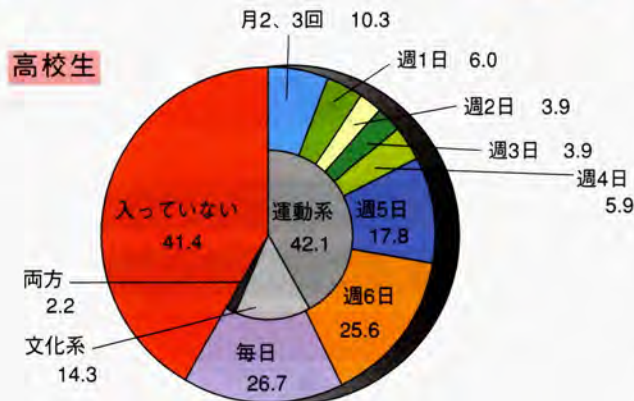
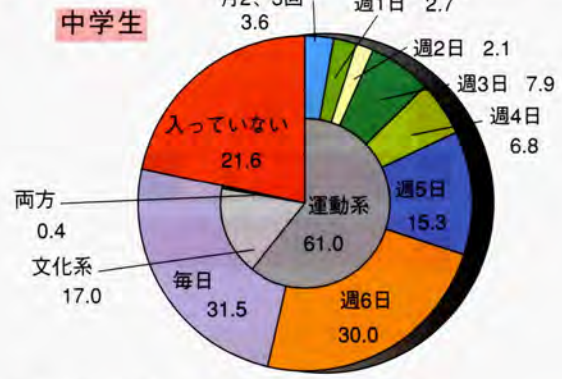
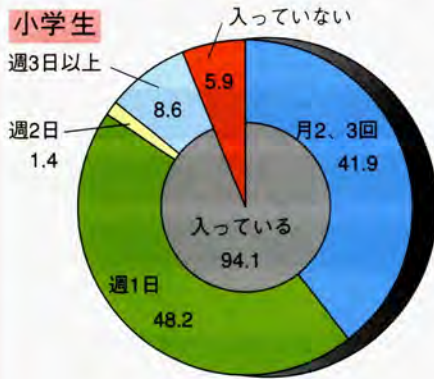
高校生では約四割が加入していないが、運動系には男女とも約四割、文化系には男子八・七％、女子二〇・一％と、文化系への加入は女子が多い。

（平成六年度 横浜市青少年基本調査）

## Ⅱ クラブへの加入状況・回数 Ⅱ

「横浜市青少年基本調査」(平成6年度・横浜市)

・中学生では約八割が加入、ほとんど毎日練習が六割。小学生では九割強が加入しているものの、週一回が約半数。高校生でも約六割が加入。



(単位：%)



# いじめ

君からホテルに電話をもらい、僕も考えた。たまには手紙もいいだろう。今年になって出張が続き、家のことを君に任せきりにしてしまい、申し訳ないと思っている。

さて、電話で聞いた勇治の友だちのことだが、そう神経質になることはないと思う。その子は母親に叱られると、勇治を家に呼んでファミコンをして、そう強くない勇治を負かして喜んでいて、ということだが、子どもってのはそういうところがあるよ。自分の昔のことを思い出してもね。

ずるいといえば確かにずるいし、君が言っていたように、一種のいじめなのかもしれない。しかし、何がいじめかというのはむずかしい問題だと思う。たとえば、おっとりした子どもなら、ちよつと乱暴な口をきかれただけで、いじめられていると感じるものかも知れないし。

だからといって「そんなふうを感じる人もいるのだから、やさしい口をききましよう」というのは、ちよつとおかしいんじゃないかな。

確かに今は、深刻ないじめもあるんだろうが、神経質になり過ぎて、ちよつとした芽でも摘んでおこうというのは、かえってよくないような気がするんだ。

それよりも、自分以外の人間が、自分とは違ったしゃべり方や行動の仕方、感じ方や考え方をするのだということをお互いに理解し、認め合えるようになることが大切なんじゃないだろうか。

勇治のことに話を戻せば、君が向こうの親に言うより、勇治がその子にいやだと言うべきだと思う。あの子はおとなしい。気持ちのやさしいところは、親として大切にしたいし、大切にしたいと思う。ただ、いやなものはいやと言え部分も身につけてもらいたい。

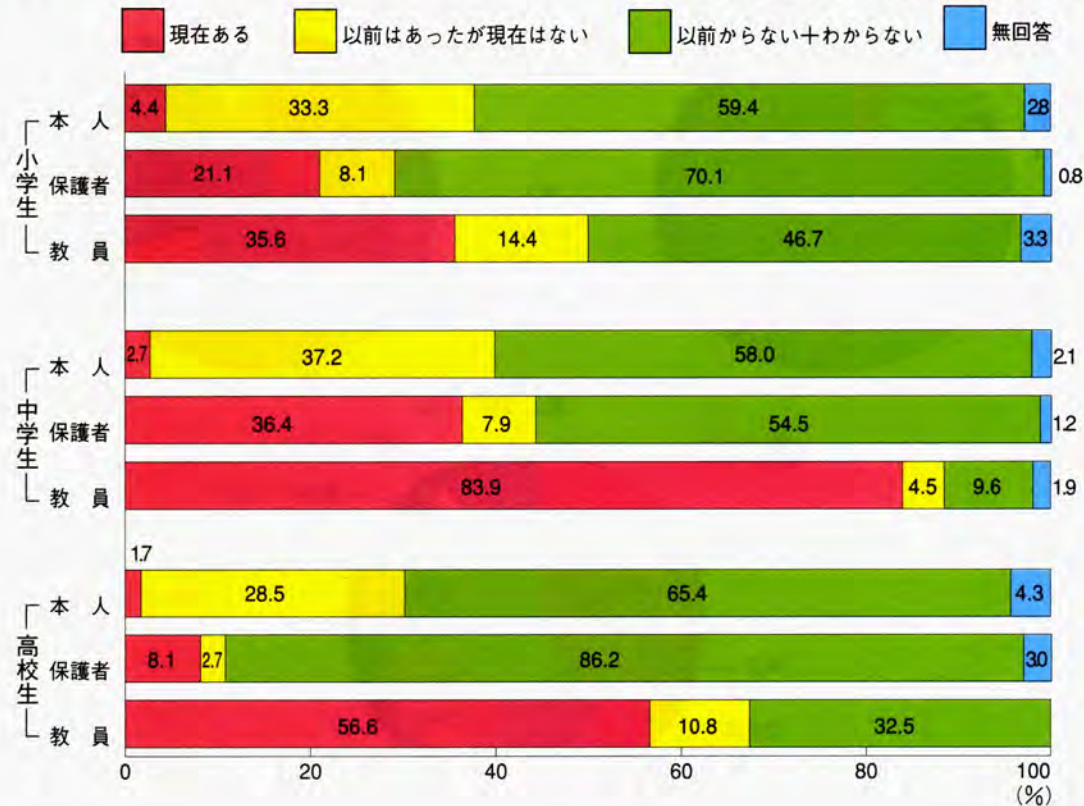
人間、頭の中で思っているだけでは伝わらないよ。いやだとか、こうしたいとか、こうしてほしいとか、ちゃんと口に出して言わないと（ひよつとして、これは夫婦間のコミュニケーションでも同じかね。書いているうちに気がついたが）。

帰ったら、僕からも話してみるよ。もしかしたら、手紙より先に帰り着くかもしれないな。

(金沢区 M・Tさん 四十二歳)

## いじめを受けた経験・いじめの有無についての認識

「横浜市子ども基本調査」(平成7年度・横浜市)



いじめを受けた経験は三割〜四割もある。いじめは、中学校教員の八割強が認識。



インタビュー



鵜殿洋徳さん

小学生の時から横浜育ち。  
奥さんと19歳の長男、  
17歳の長女の4人家族。  
38歳 磯子区在住

■普通の親子なら、中学生の時期にはあまり話もしないで、ただ通り過ぎてしまうでしょう。それが、人の三倍ぐらいかかわって来たですね。学校にも年がら年中呼び出されて、お宅のお子さんこうですよ、ってね。もうどうしようもなかったですよ。いくら親でも、抑えようがない。とことん悪かったですよ。本当に。

■でも、考えてみると、大変だったけれども、この子と一番接していられたですよ。一番いい時期だったのかな。友達も毎日、毎日来て、みんな、家で面倒見ていたから、狭い家なのに賑やかでね。

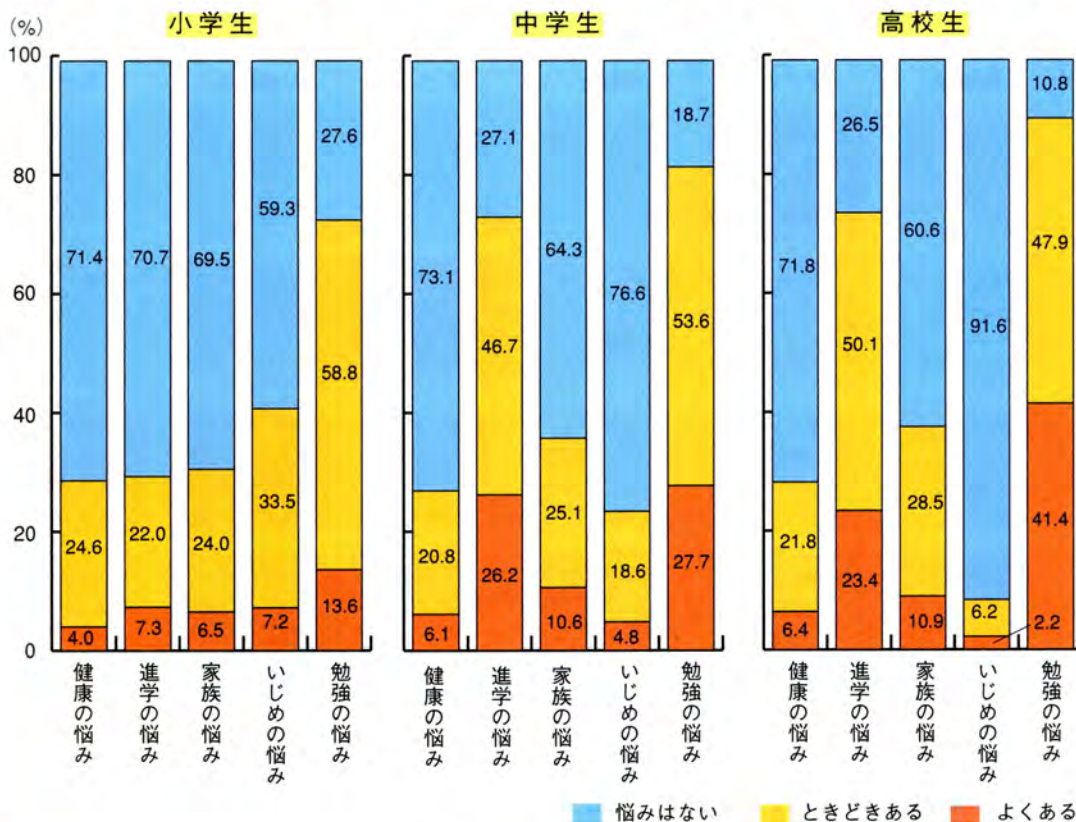
■殴っても子どもはわからないですよ。悪いのはわかっていますよ、反省の仕方がわからないんです。たとえぶん殴ったって、きかないと思いますよ。だから、一度も殴ってませんよ。悔しい時もありましたけれども。あの子も、親には絶対手を上げなかった。乱暴だけでも、それだけはしなかった。悔しかったら殴って来いと言っても、殴れるわけがないだろうと、ね……。そういう気持ちだけが救いかなと、思っていました。

■ただ、人生の中で、積み重ねて行かなければいけない勉強とかか経験が、その時期に遊んでいたことで、先に行つて、苦労するとは思いますが。でも、それも自分でわかっていることだから……。

子どもの悩み

「横浜市青少年基本調査」(平成6年度・横浜市)

・勉強の悩み―小・中・高で一番、進学の悩み―中・高で高い。家族の悩みも、小学生三割から高校生四割に増加。





# 学校五日制

先生へ。

土曜は休みなのか、そうじゃないのか、はつきりしてほしい。

第二と第四が休みとか言ったって、八日が土曜だったりすると、第一だか第二だかわからないんです。カレンダーも赤くなってないし、面倒くさいから俺なんか全部休んじゃって、おかげで単位がやばくなって。これが、俺の学校五日制の大問題だ。

世間では、共働きの子の受け皿がどうのこうのと五日制を批判してるけど、休みがいやな子どもがいるわけじゃないでしょう。

大方の本音は、子どもが学校に行ってくれないと、大人は自分がのんびりできる貴重な土曜の午前中を奪われるってぐらいのことじゃないでしょうか？

土曜にやってる授業は平日に詰め込んではどうですか。どうせ学校へ行くんだから、何時までいたって俺はかまわない。

とにかく高校は卒業したい。中途半端な五日制は落ちこぼれの落第を招くと思うのですが、どうですか。

3年C組 A・L  
(鶴見区 A・Lさん 十七歳)

## ●学校五日制・横浜では…●

平成三年一月から協力校で試行。平成四年九月から市立小・中・高で月一回開始。平成七年四月から第二・第四土曜日の月二回となり、現在に至っています。  
私立学校は各校独自に対応しています。

## 学校五日制による休みの子どもの過ごし方についての希望

〔横浜市子ども基本調査〕(平成7年度・横浜市)

(単位：%)

	小学生		中学生		高校生	
	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども
1位	近所で遊んだり運動したりする 67.5	家の中でテレビ、ゲーム、読書など好きなことをする 50.0	家でゆっくり休養する 56.1	家でゆっくり休養する 61.0	家でゆっくり休養する 55.1	家でゆっくり休養する 70.9
2位	家でゆっくり休養する 46.4	近所で遊んだり運動したりする 47.2	家の手伝いをする 35.4	家の中でテレビ、ゲーム、読書など好きなことをする 54.6	家の手伝いをする 34.7	映画、旅行、買い物などに行く 57.3
3位	家の手伝いをする 39.6	映画、旅行、買い物などに行く 39.5	近所で遊んだり運動したりする 33.3	映画、旅行、買い物などに行く 53.1	家の中でテレビ、ゲーム、読書など好きなことをする 33.2	家の中でテレビ、ゲーム、読書など好きなことをする 47.6
4位	家の中でテレビ、ゲーム、読書など好きなことをする 35.5	家でゆっくり休養する 38.6	家の中でテレビ、ゲーム、読書など好きなことをする 32.5	近所で遊んだり運動したりする 33.5	家族でおしゃべりなどをする 27.5	近所で遊んだり運動したりする 21.4
5位	家族でおしゃべりなどをする 34.0	家の手伝いをする 21.2	家族でおしゃべりなどをする 30.4	部活動をする 18.5	部活動をする 23.7	家・図書館などで勉強をする 13.2

小学生「家の中で、テレビ、ゲーム、読書など好きなことをする」。保護者「近所で遊んだり、運動したりする」。中学・高校生は子ども、保護者とも「家でゆっくり休養する」が一位。